

今年はエルニーニョ現象の影響で各地の異常気象が危惧されています。体調管理に気を付けながら、初夏を楽しんでいきましょう！

◆ 笑いを飛ばそう

売れている本は、世の中の「病」を映し出している、とPHPの『本の道しるべ』最終回に寄藤文平氏が書いています。

なるほど、とそういう視点から新聞の広告欄を見てみると、確かにうなずけます。

『心のほぐし絵』『感情的にならない本』『この世を仏教で生きる』6月19日の新潟日報の一面広告は、病む人の心の解決法をアドバイスする宣伝文句が踊っています。心に病を持つ人が、それだけ多くなっている証拠でしょうか。

前回のコラムで触れた京都三千院の門主・堀澤祖門師の弁です。「一日の始まりはみんなで大笑いをしてスタートしようじゃないか。世の中に笑いが少なすぎる。京都は三千院から笑いの渦を巻き起こすから、池田記念美術館でも始めてみたまえ」

京都が三千院からなら、不足はありません。新潟は池田記念美術館から始めてみましょうか。アツハツハ！ (館長 佐藤吉昭)

◆ 親子の出会い

6月12日の朝、お湯を沸かし濃いめのコーヒーをおとして保温ポットに入れた。外は今にも雨が降りそうだ。デイパックに雨具とともに詰めて、待ち合わせ場所に向かった。今

日は3度目の西山33観音巡りだ。

先導役の外山さんの後に続き、沢へ入る。「動物の足あとがありますね。まだ新しいものだな」と外山さんが言った。沢を進んでいくとまた足あと。今度は少し小さめのような気がした。「これは日本カモシカの足あとです。観音様に手を合わせてさらに登っていく。」

13番目の観音様まで来て、カタクリの群生地を過ぎていく時に、何か不思議な気配を感じた。ふと横を見ると、2頭の動物がこちらを見ていた。「カモシカがいますよー」と思わず小声で叫んでしまった。生い茂る草むらから大きい顔と小さい顔がちんと並んでこちらを見つめていた。

途中の休憩でコーヒーをすすりながら、「今日は来てよかったですね」と。(岡西英孝)

◆ 石川雲蝶展

石川雲蝶は江戸時代末期に活躍した彫師です。1814年(文化11年)江戸・雑司ヶ谷



生れで、今年生誕200年。今でも魚沼地方には名高い彫刻作品が数多く残されています。若くして幕府御用勤めの彫師となるほど優秀で、その腕を見込んだ三条の金物

商・内山又蔵が三条へ招いたのが、新潟との縁の始まりと伝えられています。

今回展覧会を開くにあたり、南魚沼市や魚沼地方の雲蝶作品を巡ってきました。お寺やお宅を訪ねると、それぞれ違った雲蝶の逸話がありました。その一つ、炬燵檜の話があります。雲蝶が村人のために炬燵檜を作ったのですが、足が猫足になっていて(足の先が丸くなった形)、丈夫で壊れにくく、村人が喜んで他の家でも作られるようになったとか。雲蝶がこの地で過ごした様子がわかる微笑ましいエピソードだと思いました。

左上の写真は、雲蝶作品が大切に保存されている南魚沼市穴地区の十二社です。地元に残る雲蝶の息づかいを、この機会に感じてみてはいかがでしょうか。(広田かおり)

◆ ポスター

美術館の入り口を入ったスペースにポスターやリーフレットを掲示しています。県内外の美術館や博物館だけでなく、イベントや観光情報なども紹介しています。ポスターは迫力に圧倒されるものや斬新なデザイン、大胆なイラストや美しい色彩のものなどさまざまです。展示作品とは違ったアートの世界を、いつも堪能しています。来館されるお客様も入り口で足を留める時間が長くなっているように思います。

当館では学芸員が作成しています。何度も作家の方々と打合せをして構成を考えます。その後写真やタイトル、内容など決定し完成するまでかなりの時間を要します。ご覧いただき感想などありましたら是非、お聞かせください。(佐藤良子)

◆ 野菜畑のホタル

山里に移住して3カ月が経過。梅雨の合間の休日、今朝は一早早い夏模様です。家の裏に広がる石ころばかりの荒地をどうにかし



り、ナス、モロヘイヤを収穫しました。

その畑に昨夜、ホタルが一匹、二匹と飛んでいました。昔、飯山線の線路脇を流れる小川に、ホタルが乱舞していた頃が懐かしい。美術館の池でもホタルを育てようと、昨年からは活動が始まっています。写真は幼虫が捕食するタニシを池に放っている職員です。喫茶コーナーで「ホタル観賞の夕べ」が開催できる日が楽しみです。(高橋良一)

◆ トリックアート

皆さんも一度は見たことがあるかと思いますが、白黒で描かれた老婆の横顔、ですが見方によっては若い女性の姿にも見える不思議な絵……だまし絵やトリックアートと一般には呼ばれています。ある立ち位置から見ると立体的に浮かび上がって見える絵画や、目の錯覚を使ったトリックなど、大人、子供関係なく、驚きやワクワクに出会えるのが魅力の一つだと思います。かくいう私も、幼い頃に親に連れて行ってもらったトリックアート美術館での感動が忘れられず、大人になってからも何度か観に行きました。

海外では目を疑うほどリアルな3Dアートが実際の路上に描かれている所もあるようです。身近なところにアートが感じられる町。そんな場所が増えていったら素敵ですね。(櫻井多美子)

遊び心が旺盛だった雲蝶さん

中島すい子

石川雲蝶は今年やっと二百歳になりました。全ての生活を墓石の下に移してから、百三十年になります。「退屈だ、退屈だ」と、墓石の下から声が聞こえてきそうです。仕方ありませんね。それでは二百歳になったお祝いにこの世を見せてあげましょう。

越後で作置きした作品は、雲蝶の計算通り、この世の人々があたかも現代風のトリックアートを見るように、「どうやって彫ったのか、不思議だ」と言って首を傾げます。不思議なことは何もありません。雲蝶の頭脳はコンピュータ……とまではいきませんが、回転の速さは人並外れたものを持つていたのです。



雲蝶が自分で彫った手形が残されていますが、ご子孫の方が雲蝶の手は大変小さかったと聞いておられたそうです。手首から中指まで17㎝位しかなく、この女性のような大きな手だからこそ、奥深くまでノミを入れることができたでしょう。とにもかくにも、機械で彫ることなどできなかった当時、まさに人の手だけで彫ったものだけということだけは事実です。『神業の手』による、遊び心いっぱい彫り物を皆さんの目でご覧ください。

穴地十二社、向拝の龍

池田記念美術館 展覧会&イベント情報

■南魚沼市市制施行 10 周年記念

生誕 200 年 魚沼の石川雲蝶展—よみがえる名匠の息づかい—

◎1階企画展示室・多目的ホール ◎期間：7月4日(金)～7月28日(月)

7月5日(土)14時、中島すい子さんの講演会「私の恋した雲蝶さま」

芸術性の高さから、ますます評価が高まっている天才的彫刻師、石川雲蝶。ここ南魚沼市と魚沼市周辺には雲蝶の作品が数多く残されています。今回、生誕 200 年を迎えた雲蝶と南魚沼市市制施行 10 周年を記念して、展覧会を開催いたします。非公開の作品を含めて、寺社や個人宅で大切に守られてきた欄間、墨絵、置物などを展示、持ち運びができない作品は写真パネルで紹介いたします。7月5日には中島すい子さんの講演会があります。



南魚沼市の雷土神社に奉納された神馬が公開されます。その他、今回しか見ることのできない作品を多数展示します

■プロ野球 80 年—新時代到来！

◎2階スポーツカード展示室

10月中旬まで開催中

80 年を迎えるプロ野球を熱く応援。最新のベースボールカードを展示中です。「ドラフト 1 位指名」「助っ人外国人ベスト 10」のパネルコーナーも設置し、1986 年に来日したメジャーリーガーのサインボールや 100 年前の貴重な大リーグカードも公開中です。



100年前の大リーグカードは必見です

■常設展

「日本美術展示室」日本最初の女性洋画家であるラゲザ・玉の油彩画と少女時代の習作をはじめ、會津八一の書、星襄一の版画などを展示しています。「小泉八雲展示室」日本文化を深く愛した小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)。小泉家秘蔵の資料約 1500 点の中から、直筆原稿や公文書、家族との書簡などを展示しています。「スポーツ文化展示室」野球、相撲、オリンピックを中心としたスポーツコレクション。草創期の野球文化を知るユニフォームなど歴史的な展示品を見ることができます。

◎次回展覧会&イベント情報

■第 15 回記念 八海山夢展

特別協賛：八海醸造株式会社 hakkai 株式会社

◎期間：8月2日(土)～9月2日(火)

夏の風物詩ともなった夢展。絵画、書道、写真、水石、俳句の作品 100 点以上が大集合します。

■7月の「音を楽しむ集い」

①月例音楽会 7月13日(日) 11:30～ ②フォークソングの日 7月27日(日) 14:00～

Shop 情報 スポーツウェア販売中!



池田記念美術館 南魚沼市浦佐 5 4 9 3 - 3 (八色の森公園内)
TEL 025-780-4080 / FAX 025-777-3815
【開館時間】9:00～17:00 (入館受付は 16:30 まで)
【入館料】一般 500円 高校生以下無料
【ホームページ】http://www.ikedart.jp

【7月の休館日】
毎週水曜日 (2日、9日、16日、23日、30日)
※1日、3日、29日、31日は展示替えのため臨時休館となります。
※展覧会の最終日は 15:00 閉館 (入館受付は 14:30 まで)